東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

24年 8月 20 日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: IARU 派遣先大学: ETHZ

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 5.民間企業(業界: IT・金融・製造) 6.起業

派遣先大学の概要

ETH Zurich is a one of the best university of non-English-speaking university.

参加した動機

I attended in order to experience a foreign university and to know the difference between Tokyo university and the others. And also I wanted to improve English. Moreover, because this program gave me enough money to cover the accommodation fee and flight fee.

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

The organizers of ETH are not so fast to reply Email compared to Tokyo university.

- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) None. I didn't need visa.
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) None.
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) Only credit card with insurance.
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) I asked for a credit of administration of System Innovation Department.
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC900(1 and half year before this program) TOEFL78 (a month before the program)

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
Curry paste. To practice speaking. To listen not only to TOEFL or TOEIC but also to the conversation, for example, to listen to the movie or the American TV show on youtube.

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

The first week is held in suburb area Emmental. And the second and third week is held in Zurich. In the first week, we took mainly class and learned "what is health or what is quality of life". We had an opportunity to go to Generve In the second and third week, we did some group work and made a movie for advertising of Cybathlon. You don't have to study so much in this program, it takes less than one hour to prepare or review the class. However, you have to contribute to the group.

② 学習・研究面でのアドバイス

The program was mainly consisting of group work. So, you need to speak a lot.

You had better practice speaking your own opinion in the way of discussion or presentation.

③ 語学面での苦労・アドバイス等

I could understand almost all lectures, but sometimes it was difficult to listen to conversation in daily life. It was also difficult to speak English in discussion. Generally, in Switzerland, everyone uses English as a second language. This is helpful or easy for Japanese to understand. As an advice, you had better listen not only to TOEFL but also to some Movie or TV show and you had better speak English a lot.

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

I found my room on Airbnb. The housemates were local university students. This was better than the house which had an elderly host mother.

- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) A bit chilly. You should imagine the climate of May in Japan. I bought a monthly train pass for 59fr. http://www.zvv.ch/en/tickets/tickets-and-prices/zvv-networkpass/index.html#1-2_zones It cost about 10fr per dish if you eat outside. If you have a kitchen, it cost less.
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) Very safe.
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

Air ticket: ¥100000 Tuition Text fee: free Accommodation: ¥40000

Food:¥30000

Others:¥30000(including train and excursion and souvenirs)

⑤ 学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

¥80000 from Todai. ¥80000 from Jasso.

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

The organizer held a cultural night event on the last day of first week.

On the weekend, I went some excursions. On 1st August, it was a Switzerland national holiday. There are a lot of people in the street and everybody was drinking beer and wearing a costume. There were parties all around the cities. It was fantastic. You must check it out.

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) None.
- ④ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

We could use wifi of ETH. I don't know about a library or gym.

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

The title of the summer school was "Future Health (Technology and Innovation)". The school was for three weeks as a total. The first week, first part, was held in the Emmental, where is a suburb area of Switzerland. We, all participants, stayed in the same Organic Hotel and we learned about many kinds of discipline of "health" and how to evaluate the health as a way of a lot of group works and discussions. In the second and the third week, the school was held in the ONA building of ETH, to which it takes 15 minutes from Zurich HB. We were divided into three groups and my group made marketing videos for Cybathlon, which is a kind of sports event for disabled people.

What I learned is how to discuss or how to do group work with foreign people. I think this is helpful for my life in the future. We had a chance to go to a laboratory which studied about mechanics and health technology, for example, rehabilitation or health app. It was interesting to go laboratory of ETH and to talk to people in the lab. And the big difference between Switzerland life and Japan was having a dream in English at night.

⑤ 参加後の予定

In the short term, I have to prepare the graduate school entrance exam and to write graduation thesis. In the middle term or longer, I will prepare for TOEFL and GRE and want to enter graduate school and study abroad.

⑥ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語はできるのが当たり前で、英語を使って何か学ぶとか、成果物を出す目的のサマースクールなので、英語は全部ー通りできる必要がありました。特に聞くのと話す能力は大切でした。あと私はできませんがドイツ語ができるともっと楽しいかも。迷っているなら参加した方がいいと思います。

その他

- ① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 None.
- ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2014年 8月 20 日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学系研究科修士2年

参加プログラム: IARU GSP 派遣先大学: ETH Zurich 卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:重工業メーカー)

派遣先大学の概要

ETH はスイス連邦工科大学で、名前の通り理工系の大学です。THE の大学ランキングでは非英語圏の大学では世界一で、特に建築分野に関しては世界トップレベルです。

スイス国籍であれば高校を卒業すると簡単に入ることができますが、2回留年すると退学になるそうです。大学院生はいくつかのプロジェクトをかけもちしており、非常にハードな学生生活を送っています。

授業期間後に試験休みを経てから試験があり、本当の"休み"は1週間程度しかありません。

参加した動機

IARU GSP に参加したのは、海外の学生がどれほどまたどのように勉強しているのか体験したかったからです。日本の大学生は全然勉強しないと言われているが、実際はどうなのか自分で確かめたいと思いました。また自分のいとこ4人のうち3人が欧米の大学に通っているので、漠然と欧米の大学に興味があったというのもあります。

ETH を選んだのは、ETH が科学技術の分野で極めて高い評価を得ているので、どのような教育がなされているのか知りたかったからです。また学部のときに運動会の部活に入っていたので、運動と健康の関係について興味があり、今年のテーマが相応しかったからです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

採択後に ETH から何通かメールが届くので、それにしたがって手続きを行えば問題ないです。

- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは不要でした。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

スイスは非常にきれいな国なので、特別な準備は必要ないと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 私は試験が一つかぶってしまい受けられませんでしたが、教員と相談すれば試験の代わりにレポート提出が認められることもあるそうです。

単位を認定してほしい場合は、研究科によって対応の仕方が異なるので各自確認してください。工学系に関しては教授会で認められれば正式に単位を認定されるそうです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

今回の GSP に関して特別な準備はしていませんが、TEDee 等で定期的に英語を話すように心がけていました。出発前は TOEFL iBT 93 点でした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本食を持参しみんなに調理しました。スイスは特に物価が高いので毎回外食をすると非常にお金がかかります。 簡単なものでも何か料理ができると役に立ちます。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

第一週は野外活動として、スイス中部の Emmental で健康全般に関して講義を受けました。食事内容や歩数のログ、ランニング、採血といった人体実験を行いました。 Field trip として Geneve の WHO に訪れました。

第二、三週は3つのグループに分かれてプロジェクトを全うするというものでした。チーム1は第一週の人体実験の結果を解析し、科学技術が健康にどのように貢献するのかをまとめるものでした。チーム2は 2016 年にチューリヒで行われる Cybathlon というイベントのルール作りと模型作製でした。チーム3は Cybathlon のスポンサー向けのプロモーションビデオを作成するという内容でした。

Cybathlon に関しては

http://www.youtube.com/watch?v=0H5GslcBWeQ

予習・復習はとくに必要ありませんが、9時から早くても18時までみっちり拘束されるので、東大で行われているようなGSPの講義とは異なり、決して楽なものではありませんでした。

最終プレゼンの前日は深夜 0 時過ぎまで準備をしました。

印象に残っているのもは第一週にあった Geneve の WHO 訪問です。僕は以前からずっと国際機関で働きたいと思っていたので、WHO で働いている職員の話を聞けたのは非常に貴重な機会でした。

②学習・研究面でのアドバイス

グループワーク等で周りの人に圧倒されても自信を失わないこと。ETH は欧米の大学なので当然のことながら欧米の教育を受けた人の方が学習スタイルに慣れています。日本ではほとんどプレゼンの機会がないですが、ETH のプログラム中はほぼ毎日みんなの前で話す機会がありました。そこでうまく話せなくても自信を失わないでください。それよりも日本で最高水準の教育を受けているので、何かしら彼らより優れている点があります。自分の強みをプログラム中に見つけ充分に発揮し、チームとして最大のアウトプットを出せるように自分の役割を果たしてください。

③語学面での苦労・アドバイス等

非英語圏の人が大半なので、全員が英語を流暢に話せる訳ではありませんでした。よく聞くと非英語圏の人は文法的な間違えがあります。それでも彼らは自信を持って話しているので、間違いを恐れずに自分の意見を言ってください。

僕は基本的なコミュニケーションは問題なかったのですが、やや専門性の高い内容もあったため留学中は語彙面で苦労しました。特に論文を数本読まされることもあったので、論文を読むのに慣れていないと難しいかもしれません。またいろいろな国の人が集まるので、様々なアクセントの英語が飛び交います。これに対して何か対策を立てるのは難しいですが、グローバルな環境とはそういうものだと認識し徐々に慣れていけばいいと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

EHT には寮がないため、第二週と第三週は各自で探さなければなりませんでした。参加者が決まると Facebook ページが出来上がり、参加者同士でルーメシェアする人を募集していました。3~4 人くらいで、2 週間で一人100~400CHFくらいかかると思います。また Air b&bを利用して探す人もいました。料金は400CHF~だと思います。僕の場合は最後の方まで宿泊先が見つからず、東大の IARU GSPに来ていた ETH の友達に宿泊先を紹介してもらうようにお願いしました。運良く泊めてくれる人が見つかりましたが、リスクが高いので参加者同士で情報交換してルームシェアするのをお勧めします。

宿舎の様子は値段にも大きくよると思いますが、個室があるのが一般的だと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 今年の夏は異常に雨が降る年だと聞きました。気温は東京より 10℃くらい低いので長袖の服をもっていきましょう。 複数名、風邪を引いた人がいました。

第二週からは毎日通学しますが、2つのキャンパスから離れた建物で作業しました。

スイスの交通機関は非常に高いので、1ヶ月分の定期を買った方が良いです。チューリヒから遠出してスイス国内を旅行したい場合はスイスパスやスイスカードを検討してみてください。

お金に関しては、クレジットカードの汎用性が非常に高いので、あまり現金をもたないようにしました。スーパーでも交通機関ではお土産屋でも基本的にどこでもクレジットカードが使えます。両替についてもユーロ経由ではなく、日本円を両替しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) スイスは非常に治安が良かったです。深夜1時くらいの街中をひとりで歩いても全く問題なかったです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 合計 25 万くらいでした。

航空券は9万5千円くらい。

授業料免除、教科書なし。

家賃は僕の場合は無料と言われましたが、非常にお世話になりチップとして 3 万円くらい払いました。 食費は 2 週間で2万円弱。

交通費は1ヶ月間の定期、スイスパス、その他旅行費を合わせて6万円くらいでした。

お土産等その他の出費が4万円程度でした。

節約すれば航空券を除いて10万円以内に抑えることもできると思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) JASSO から8万円、Santander から8万円です。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 第一週目の最後に Culture Night があり、各国ごとに文化紹介やダンスをしたり料理を作ったりしました。

日本としては AKB のダンスを踊り、焼きそばをつくりました。

週末はライン滝、Luzern、Tittlis、Zermattに出かけました。

ちょうどプログラム中に National Holiday とパレードがあり、湖畔で花火を見たり、パレードに参加したりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポートは与えられるものというよりは、自ら何かを求めれば親身に聞いて応対してくれました。

第二週からはチームごとに責任の重いプロジェクトを行うので、質の高いアウトプットができるようにチームに対して Supervisor がついていました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

キャンパスから離れたところの施設で学習していたので、キャンパスの施設はほとんど利用しませんでした。PC は必須であり、Wifi 環境は非常に優れていました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

"Future Health"という内容面について学んだことは、第一週の講義による健康に関する知識のインプット程度でした。

それよりもグループワークを通して、世界の一流大学の学生のレベルがどの程度であり、自分が"グローバル"な環境の中でどのような役割を果たせるかについて深く考える契機になりました。必ずしも彼らと同じ土俵で自分を評価する必要はありません。実際に僕は発言が多い方ではなかったのですが、チーム内で斬新な意見を出したときには、他のチームメートがほめてくれたりしました。沢山話すことだけがいいことではなく、チームのゴールに向けて前に進むことが重要だと思います。

他に感じたことは、海外の学生は非常に専攻内容を重視するということです。必ず「何勉強しているの」「どんな研究をしているの」というような質問をしてきます。どこの大学で勉強するかよりも何を勉強しているのかを重視しており、専門性がキャリアに直接的に結びついているのが一般的でした。自分の専攻に誇りをもち、生き生きと他の人に話せるようになりたいと思いました。

②参加後の予定

就職活動も終わり、これから修士論文を控えているので研究を中心とした生活になると思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

主に理系学生向けになりますが、優秀な人にはどんどん海外の大学院に学位留学してほしいです。日本の理系の学生(特に院生)は研究に追われていて学会以外では海外に行く機会があまりないですが、本気で研究者を目指したいなら実際に海外の大学の研究環境を自分の目で見てほしいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方は買ったのですが、ほとんど準備しませんでした。

留学中は分からない専門的な単語が沢山出てくるので、weblio(http://ejje.weblio.jp/)が大変役立ちます。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2014年 8月 20日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):情報理工学系研究科・修士2年

参加プログラム: IARU GSP ETH1 派遣先大学: ETH Zürich

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等)(3)公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

スイス連邦チューリッヒにある単科大学。キャンパスは市内に主に2つ。自然科学と工学を対象とした単科大学として知られる。1855年の創設以降、21名のノーベル賞受賞者を輩出しており、ヨーロッパ内に限らず、世界のトップレベルの大学として常に高い評価を受けている。

参加した動機

東京に来る外国人や学内の留学生と触れ合ううちに、実際に海外の大学に行って他国の大学生と関わることで、その国や多様な文化に触れたい、現地をより深く見たい、という思いが強くなったため。また、ETH を選択したのは、高校時代に出会ったドイツ語の先生から「ETH Zürich へ行ってみるといいよ」と言われていたことが今までの進路選択に影響を与えてきたと感じているため。また、スイスドイツ語を体感してみたかったたことも理由の一つである。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 学内選考に提出した書類のみ。そこから先はメールベース。特に困ったことはない。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) なし
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) なし
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 民間の保険に自身で加入(帰りの便でスーツケースが遅着だったため、加入しておいて良かった)
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 修士学生だったため特になし。ただし、指導教員の教授とは密に連絡を取った。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発までに英語、ドイツ語(+フランス語)のレベルを上げておこうと思ったが、就職活動、発表等に追われて飛行機に乗ってから英語を読むにとどまってしまった。留学中どれだけ語学力を伸ばせるか、どれだけ密な時間を過ごせるかは出発前にどれだけしっかりと語学を自学したかにかかっていると(私は)考えているので、出来る限りのことはしていったほうがいいと思う。

- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
 - ・PC と変換プラグ、現金とカードさえあれば何とかなる。

あとは常備薬、虫刺され用の薬(アジア人が耐性を持たない虫がいるようです)。

・語学力は極力伸ばしておくべき。

私は日々週1以上外国の人と会話するようにしていたが、それでもリスニングに課題を感じた。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

1週目は Emmental のセミナーハウスでひたすら講義を受けつつ、2~3週目のデータ分析班用の被験者となった。 2~3週目は Zürich に戻り、3グループに分かれて最終日の最終発表に向けてグループワークをした。Team 1

は "Technology for a Sustainable Healthy Behavior"、Team 2 は "Designing the Cybathlon Disciplines"、Team 3 は "Cybathlon Marketing and Communication" というテーマにそれぞれ取り組んだ。私は Team 1 に所属し、その中のデータ分析班として、イタリア人、インド人、トルコ人、フランス人と R や Excel を用いてデータの分析を行った。論文を読んだり、統計や数学の基礎知識がないとわからないであろう課題が次々と出されたりと、1週間ほどはパソコンに向かってひたすら作業をし続けても終わらない…という予想外(?)の日々であった。とはいえ、私達の班は非常にチームワークが良く、進捗状況を頻繁に交換しあったり(ときには一人の学生の家でホームパーティをしつつ夕食をとったこともあった)、昼食作りを日替わりで担当したりと、学習以外のことに支えられつつ課題をしっかりと進めていくことができた。

② 学習・研究面でのアドバイス

各国から意識の高い学生が集まってきているからなのか、あまりに日本人がグループワークを学生時代に経験しなさ過ぎだからなのかわからないが、まず外国人学生のグループワークのスキルに驚かされた。とにかく、無駄がない、かつ自分が全体のどの部分を担当しているのか、全体として今の進捗状況がどの段階なのかを常にフォローしている点に感銘を受けた。また、矛盾点はしっかりと指摘する点、分からない点は分からないと言う点等々、学ぶことが沢山あった。その他、講義において、積極的に質問・発言をする学生が非常に多かったのも印象的だった。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

世界各地から集まった学生が課題について英語で議論しつつグループワークをしていく、かつ議論になるとスイス人とドイツ人はドイツ語で話し始めるため、頑張ってついていくことが必要。特に、ネイティブでない人の英語を聞き取るのは最初慣れなかったので、分からないと思ったらすぐに聞き返すこと。そうしないと(分かっていると思われるか、議論に参加する気がない or できる能力がないと思われるか、のどちらかで)どんどん議論から置いていかれるため。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

安い宿を探したかったため、同じプログラムに参加する外国人学生を集めてAirbnbでひたすら宿を探した。ただ、当初6~7人で探していたこともあり、連絡が上手くいかなかったり、それぞれの求める条件が異なっていたり(価格、安全性、場所などについての認識の違い)で宿を取り逃すことが数回あった。結局はその6人のうちの1人だった中国人の子が見つけてくれた宿(2LDK)に、中国人女の子と部屋をシェアするという形で転がり込む形となった。結果的には2週間で100CHFという破格だったため、結果オーライ(普通は500CHFでも安いとされる)。立地も中央駅と大学の中間、かつスーパーマーケットのすぐそば、安全な地域という最高の場所だった。(※ただし、1部屋を2人で使わなければならず、プライバシーはなかった)

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候:2週目は毎日のように雨が降っていたりと、日本の 10~11 月のような天気だった。それ以外は 26℃くらい。 (現地の人曰く、今年は異常で、普段はもう少し暑いらしい)

大学周辺の様子: Emmental…のどかな町で、野原と家と牛に囲まれたところ。

Zürich…スイスーの都市にもかかわらず、安全で、静かな街。人によっては退屈かもしれない。 交通機関:トラムが非常に発達していて、トラムの線路さえ見つければ道に迷うことはない。電車もとても綺麗。 食事:基本自炊。スーパーマーケットが(意外に)非常に安いため、自炊をすることでかなり節約できた。

1回だけ高めのレストランで食事をしたが、聞いていたとおり非常に高価でした・・・

お金の管理方法:現金 550CHF とクレジットカードを持参

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良い。スイスでピアノを練習したかったため、ETH の学生に大学にあるピアノの予約をお願いしたときに 22:00 迄で予約を取ってくれた。「大丈夫なのか・・・・?」と思ったが、それくらい安全な場所。 現地の人曰く、「お財布を落としても戻ってくる」らしい。

心身の健康管理という点では、1つの部屋に2人でいるという状況が3週間続いたため、パソコンやピアノに没頭する、旧友に会いに行く、など一人の時間 or プライベートの時間を作るように心掛けた。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 130,000 円(ドバイ経由)

家賃 100CHF スイスパス(1ヶ月用) 55CHF

授業料 OCHF(500CHF のところを免除)

教科書代 0CHF 食費 250CHF

その他土産代

※ドイツへの週末旅行 バス往復30€、宿泊費0€(友人宅宿泊)、土産代

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 80,000 円 Santander 80,000 円

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

平日は、Hönggerberg というキャンパスにある Musikzimmer を借りて、授業後遅くまでピアノを練習していた。2週間分を ETH の学生が予約してくれていたが、授業のため毎日は行くことができず残念だった。グランドピアノ or アップライトピアノが1台ずつ置いてある部屋が並んでおり(ちなみに大体どの家庭にもアップライトピアノがある)、このような面からも、音楽が身近となっている文化を垣間見ることができた。

週末は、同じプログラムに参加していた学生同士で市内を巡ったり、少し遠出をしたりした。また、私は Meinfernbus という格安バス(しかも快適)でドイツまで足を伸ばした。帰り、偶然にもバスごと船に乗って Bodensee を渡ることができたのがある種のサプライズで、非常に良い思い出となった。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

Organizer1人とETH の学生3人ほどが、訊けばあらゆる面でサポートをしてくれる。とはいえ、皆とても自立している、かつ ETH 側の学生も気さくな人ばかりだったため、スタッフというよりはグループの一員のような感じだった。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 上述の通り、ピアノを借りることが出来ました!!!Wifiに困ることはない。 ※図書館、食堂、スポーツ施設は基本使用不可。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

意識の高い学生が集まっていることもあってか、講義、グループワークだけでなく、週末の行動を通しても様々なことを学ぶことが出来た。端的には、積極性、客観性、自立性、といったものだろう。また、外国人学生にとっては本プログラムが複数回目(中には5回目という学生も)という場合が多く、日本人全般として、もう少しサマースクールという概念が広まっても良いのではないかと感じた。特に、私のように早い段階から語学・留学に興味をもち続けてきた学生であっても、(特に東大の場合)学業やらその他の理由で機会を逃す、またはハードルが高いと感じている学生がいるとしたら、それはもったいないことなのではないかと思う。目的意識がないまま海外にやみくもに出れば良いというものではもちろんないが、海外への憧れだけでなく、現実を自分の目で見るということを、是非より意識の高い学生にして頂きたいなぁとより強く思うようになった。

② 参加後の予定

学習・グループワーク等を通して他国の学生とある種微妙な話題まで議論することができる仲になったように感じているし、ドイツ語圏を満喫することもできた。とはいえ、3週間だけでは見えてこないであろう面ももっと知りたいとより考えるようになった。また何よりも、(英語に限らず)もっと語学力を伸ばしたいという想いが強くなった。そのため、できることならより長期の留学をしたいと考えている。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外の学生と関わることで見えてくるものは大きいと思います。日本の長所短所、海外の長所短所、そのようなものを自分自身の目で見て感じるという体験をしたい人にはお勧めのプログラムです。観光ではなく、他国の学生と知恵を絞ることによって得られる連帯感、親近感、そして価値観の違い・・・これらを大学生時代に体験しておくことは貴重な財産になるのではないかと考えています。是非、自分に合ったプログラムをしっかり見極めて、参加してみることをお勧めします。



その他

① 準備段階や留学中に役に立った ウェブサイト・出版物

Airbnb(ルームシェア探し用)

https://www.airbnb.jp/

スイスパス(スイス国内の電車・トラム用)

http://www.zvv.ch/en/tickets/tickets <u>-and-prices/zvv-networkpass/</u> Meinfernbus(格安高速バス) http://meinfernbus.de/

② その他東京大学のホームページ・ 出版物等に掲載してよい留学中 の写真があれば添付してくださ い。